

## 「高知県橋梁会 平成27年度第1回研修会」報告

高知県橋梁会理事 森下伸裕

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による、平成27年度第1回研修会が去る4月17日に高知市本町の「高知会館 飛鳥の間」で開催された。

開催に先立ち、右城猛会長が地盤工学会の「地盤工学貢献賞」を四国で初めて受賞したことに対し、橋梁会として祝意を表した。

引き続き研修会を開催した。発表数は5編で、参加人員は87名であった。

### ■研修会(13:30～16:30)

右城会長より以下の開会の挨拶があった。

今回の研修会には87名の方に参加していただいている。他の研修会等は参加人数が先細りとなって行く中で、本会は参加人数が多く盛会である。今年度も1社の新規会員が入会することとなり喜ばしい限りである。会員各位におかれては本会の研修を通して、より一層の研鑽をしていただきたい。



右城猛会長による開会の挨拶

最初の講演は高知県商工労働部工業振興課の松岡孝和課長。「高知県の地元企業による防災関連商品」と題して、高知県の防災関連産業振興に関する取り組みに関する説明があった。

その内容は、将来必ず起きると言われている南海トラフ地震に備えて、官民協働で防災関連産業を振興するための取り組みの紹介であった。最初の取り組みでは、「高知県防災関連産業交流会」を創設し、情報交流を行った。26年度末の交流会員数は134社に達している。

次には、「高知県防災関連製品認定制度」を創設し、その品質・安全性について学識経験者を含めた審査員により審査し、認定された製品を「地産

地消」から「地産外商」に向けて取り組むというもの。26年度末で85製品を認定し、そのカタログを作成して全国の見本市等でPR活動中。

今後の展開として、海外にも販路を拡大するようになりたいとの説明があった。(13:40～14:00)



トップで講演をされる松岡孝和課長



熱心に聴講される参加者

2番目の講演は四万十コンクリート(株)の社長の矢野武志氏。「大型コンクリートブロック ガーディアン」と題して、橋梁会右城会長及び高知工業高等専門学校横井先生の協力による、産学協働研究の成果としての擁壁用大型コンクリートブロック製品の紹介があった。

この製品の特徴は、裏表それぞれにコンクリートパネルを使用し、その間を山形鋼で接続していることで、従来製品より重量が軽いため、より小型の重機での据付が可能。2枚のパネル間に鉄筋を配置してコンクリートを打設することにより耐震性能を持たせているというもの。また、接続の山形鋼の長さを変えることにより、勾配と控え幅を自由に決めることができるので、より経済的な設計が可能となる。

今後の展開として以下の開発を行いたい。

- ◆もたれ式擁壁や重力式擁壁に使用できる物
  - ◆砂防ダムのような堰堤構築用
  - ◆表裏の法勾配が異なる形状で、控え幅が変化するタイプ
- (14:00~14:30)



2番目に講演をされる矢野武志社長

3番目の講演は(株)日本パーツセンター設計部開発課の中口彰人課長代理。「津波・漂流物防護柵 津波ガード」と題して、津波の減衰・漂流物の捕捉を目的とした防護柵の紹介があった。

この防護柵は、津波に対して防潮堤を嵩上げすると大規模な工事となるので、有孔折版を使用することにより、ある程度の津波は透過させるが、浸水深さと流速を低減させて避難時間を確保しようというもの。

また、この防護柵によって漁船等の漂流物を捕捉することにより、近隣の家屋倒壊等の二次災害を最小限に抑える効果があるとのこと。

この防護柵の水理模型実験は、金沢大学と産学共同で研究している。

(14:30~14:50)



3番目に講演をされる中口彰人課長代理



質疑をされる受講者

4番目の講演は横浜国立大学名誉教授の池田尚治先生。「高耐久PC構造物の建設に関して」と題して、プレストレストコンクリートの歴史、PC構造物の津波対策としての利用方法に関する説明があった。

その内容は、下記の通りであった。

東日本大震災の死者の大半は溺死であった。2リットルのペットボトル2本あれば、顔が水面から上に出るだけの浮力を確保出来るので、津波に巻き込まれても生存率は大幅に高くなる。ペットボトル2本を潰した状態で常時携行し、地震発生時には膨らませて身体に紐で縛り付けるという方法の提案があった。

PC構造物の津波対策としては、自己浮上PCシェルターと自己起立PC防波堤の提案があった。自己浮上PCシェルターは、4本のPCガイド柱に繋がれた比重0.35のPC浮体が津波により上下することで、そこに避難した人を守るというもの。

自己起立PC防波堤は、やはり浮力を有したコンクリート壁体をPCケーブルによって

フーチングに接続しておき、津波襲来時にはその浮力と水圧により自己起立させるもの。  
以上を大津波対策として提案された。

(15:00～15:40)



4 番目に講演をされる池田尚治名誉教授

5 番目の講演は黒沢建設(株) 常務取締役の田邊恵三氏。テーマは「巨大地震、巨大津波に対応したPC人工地盤システム」。

内容は、東日本大震災の復興対策として、用地の取得等が難しい高台移転をするのではなく、現在の場所にPC構造の大型人工地盤を設けて、その上に住宅・商業施設等の街づくりを行うという提案。

(15:40～16:20)



5 番目に講演をされる田邊恵三常務



質疑される受講者

最後に吉田副会長が、本日の講演者の皆様へのお礼を述べ、研修会を終了した。



吉田幸男副会長による閉会の挨拶



司会を担当した森下伸裕理事

#### ■ 定例総会 (16:30～17:00)

研修会終了後、定例総会が開かれた。出席は、正会員40社の内の29社であった。

平成26年度の事業報告・収支決算報告・監査報告、平成27年度の事業計画案・収支予算案の議事が満場一致で承認された。

役員については、ショーボンド建設(株)清水敦志氏の転勤に伴い、後任としてショーボンド建設(株)三上晃弘氏を選任した。その他の役員は全員留任。

引き続き新会員として西尾レントオール(株)の紹介が行われた。



右城猛会長による司会進行



右城猛会長の挨拶



総会状況



新会員の西尾レントオール玉尾壮志氏挨拶

■懇親会（17:30～20:00）

定例総会終了後、会場を平安の間に移して懇親会を開催した。参加者は55名であった。

開会に先立ち、右城会長の「地盤工学貢献賞」受賞に対して橋梁会より花束を贈呈した。

開会の挨拶を右城会長が行い、続いて新会員の西尾レントオール高知営業所長の玉尾壮志氏が挨拶を行い、西岡顧問による乾杯の音頭で懇親会を開始した。



西岡南海男顧問による乾杯の音頭



武内豊理事より右城猛会長へ花束贈呈



歓談の様子



歓談の様子



吉田幸男副会長による中締め

懇親会終了後、二次会をいつもの赤たぬきで行った。出席者は8名と少ない参加であったので、次回は多くの方々の参加をお願いします。